来週の投資戦略（11/16-20）

エヌビディアとアンソロピックに注目

2026 年 11 月 15 日

小松　徹

注目事項　－　見所

11 月 16 日、7-9 月期の実質 GDP 成長率　―　前期比+0.1%？
11 月 16 日、ウオーシュ FRB 議長発言　―　インフレ対応を重視？
11 月 17 日、エヌビディア決算　―　暫定 CEO クレス氏の財務に関する発言は？
11 月 18 日、連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨　―　12 月利上げの意見多い？
11 月 19 日、米アンソロピック上場　―　初値と引け値は？
11 月 20 日、10 月の全国消費者物価指数　―　前年比+2.5%、コアコア+2.3%？

株式市場見通し

先週のわが国の株式市場は大幅反発した。その前の週にデータセンター（以下、DS）建設の先行き不安から、DS に商品を供給する会社の株式が一斉に売られ、エヌビディアのフアン CEO のスキャンダルにも揺れていたが、フアン氏の辞任が決定的になると、売り方の買戻しでほぼ全面高となった。特に好決算を発表した銘柄が大幅上昇した。ソシオネクスト（6526）+22.2%、大成建設（1801）+19.1%、DIC（4631）+17.5%、東レ（3402）+16.6%など。今期の企業業績予想は+20%まで高まった。来週は米国で２つの大きなイベントがある。ひとつはエヌビディアの決算説明会でクレス暫定 CEO が当社の簿外債務を含めた債務残高がいくらまで積みあがっているか。アンソロピックの公開初値がいくらになり、引け値がどこまで上がるか。

火曜日発表のエヌビディアの 8-10 月期決算は 20%増収、EPS90%増とアナリストは予想しており、11-1 月期もそれぞれ 50%増、69%増と見ている。ただ今回の決算説明会でアナリスト・投資家が一番不安に思っているのはフアン氏がこれまで積み上げてきた投資案件と簿外債務の金額だ（一部推計 25 兆円あるいは 80 兆円）。長く CFO を務めたクレス氏だからすべて把握しているとは思うが、そうでないものがないとは断言できないだろう。今までの拡大戦略が次期の正式な CEO に引き継がれるとは思えない。そうした場合の影響をどう見るべきか。

木曜日のアンソロピック上場はスペース X を大きく上回る規模になる。数週間前までは時価総額が 1.26～1.41 兆米ドルに引き下げられていたが、需要が強いとのこの 1 週間くらいの見方から、投資家は当初から強気になるか。当銘柄を買うための資金はすでに十分用意されているだろうから、直前になって換金売りが発生することはなかろう。主幹事のゴールドマン・サックスのアナリスト予想では売上高が 2026 年に 11.3 倍、2027 年に 2.6 倍となるが、営業黒字は 2029 年になるようだ。30 年前のアマゾンと比較されることもあるが、アンソロピックの場合にはオープン AI など競合もいる。

最後に、経済指標関係について。ウオーシュ議長の発言と FOMC 議事録要旨は 12 月の 0.25%利上げを決定的なものとするか。一部で 0.5%の観測もある。わが国では弱い GDP 成長率と消費者物価の２%超えに米ドル高・円安の流れが続くか。

KPA の投資戦略

ロング（買い）	ショート（売り）
好財務の割安株、今期大幅増益株	高 PB 低位株、高 PE 新興株

(注)　ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。

日経２２５


75000
70000
65000
60000
55000
×千万
400
300
200
100
0
6
2026/7
8
9
10
11

TOPIX


4300
4200
4100
4000
3900
3800
3700
3600
×千万
400
300
200
100
0
6
2026/7
8
9
10
11

米ドル・円相場



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPA は本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPA は本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPA はいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPA は本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権は KPA に帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPA に帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPA は金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。本レポート執筆時点で、KPA 役員あるいは KPA のお客様は DIC を保有しています。

©2000－2026 Komatsu Portfolio Advisors Co., Ltd. All rights reserved.